

## 形成外科

## 形成外科外来、始めました

(九州大学病院形成外科 准教授)  
**形成外科医師 門田 英輝**  
 Kadota Hideki

形成外科の一般的なイメージは「傷跡をきれいに  
 する。」というものではないでしょうか？ 傷跡の  
 修正は形成外科手術のごく一部にすぎません。外傷  
 や手術により失われた乳房・四肢体幹・顔面の再  
 建、手足・顔面の先天異常の修復、リンパ浮腫に対  
 するリンパ管細静脈吻合・リンパ節移植、眼瞼下垂  
 の改善など、さまざまな疾患を取り扱っています。

現在、当科で扱っている代表的な疾患を紹介させ  
 ていただきます。

### <乳房再建>

乳がん手術で乳房が失われると、見た目が変化す  
 るだけでなく精神的にもダメージを受け、日常生活  
 に大きな影響を与えます。たとえ高齢であっても  
 「友人と温泉に入れない。」「服を着るのに形を整  
 えるのがむずかしい。」などの悩みを多くの患者が  
 抱えています。

2014年より人工乳房（シリコン製のインプラント）  
 が保険適応となり、これまで以上に多くの方が乳房  
 再建を受けられるようになりました。当科では人工  
 乳房だけでなく、自家組織（下腹部や背部からの皮  
 弁移植）による乳房再建も行っております（図1-a、  
 b）。また、乳頭乳輪を切除された方には乳頭乳輪の  
 再建も行っております。



図1-a. 左乳腺全摘後。



図1-b. 深下腹壁動脈穿通枝皮弁による乳房再建後。  
 良好な形態の再現ができています。

### <顔面神経麻痺>

顔面神経麻痺はウイルス感染、脳腫瘍・耳下腺腫  
 瘍切除後、側頭骨骨折などで発症します。麻痺が回  
 復しない場合、目や口の動きが制限され、整容的に  
 重大な後遺症を残します。麻痺の原因や年齢に応じ  
 てさまざまな治療法があります。

麻痺の原因が神経の断裂であれば神経移植、神経吻合を行います。顔面神経の吻合で回復する見込みが低い場合、舌下神経や三叉神経と吻合することもあります。

神経再建を行っても麻痺が回復しないことがあります。口の周囲が麻痺して笑顔を作ることができない、口から食事がもれるといった後遺症が残る場合、広背筋や前鋸筋などの筋肉移植を行います。移植する筋肉の支配神経を顔面神経と吻合することにより、自然な笑顔の回復が期待できます。また、高齢で筋肉移植の効果が期待できない場合、口角と下顎骨の間に大腿筋膜を移植することで、口元を動かすことができるようになります（図2-a, b）。



図2-a. 陳旧性顔面麻痺例。左口角の下垂、鼻唇溝の消失があり、口角より食事のもれが持続していた。



図2-b. 大腿筋膜移植による口角形成後。鼻唇溝が再現され左右の口角もほぼ同じ位置に再現されている。口角からの食事のもれも改善された。

眼輪筋、前頭筋が麻痺して眉毛や上眼瞼が下垂すると、顔貌が変化するだけでなく、上方の視野が狭くなります。眉毛挙上や上眼瞼の余剰皮膚を切除することで、視野のみならず、整容的な改善も可能です。

### ＜上下肢リンパ浮腫＞

乳がんや子宮がん、上下肢の悪性腫瘍切除に合わせて腋窩・鼠径部のリンパ節郭清を行うと、上下肢のリンパ流がうっ滞してリンパ液が貯留した状態になります。これがリンパ浮腫の病態です。治療はストッキングやバンデージによる保存的治療が第一選択ですが、浮腫が進行した状態では効果が不十分なことがあります。当科ではそういった保存的療法無効例に対して、顕微鏡を用いてリンパ管を静脈にバイパスするリンパ管細静脈吻合術（Lymphatico-venular anastomosis：LVA）を行っています。また、LVAの効果が不十分な症例に対してはリンパ節移植を行うこともあります（図3-a,b）。



図3-a. 両下肢リンパ浮腫例。右は蜂窩織炎を合併している。



図3-b. リンパ管細静脈吻合術、リンパ節移植術後約3年。浮腫の著明な改善を認める。蜂窩織炎の再発もない。

リンパ浮腫の確定診断には、下肢静脈瘤による浮腫や心不全・甲状腺機能低下症などの全身疾患に伴う浮腫などの鑑別が必要です。当科では昨年よりリンパ管シンチ（図4）を導入しており、リンパ浮腫かどうか診断が難しい症例を対象に検査を行っております（現在、本検査は使用薬剤の関係で一時的に休止中です）。

当科ではこの他にも難治性の血管腫・血管奇形、巨大な母斑、脂肪腫症、口唇口蓋裂、顔面外傷、眼瞼下垂等にも対応しております。2016年4月より毎週火曜午前、専門医2名で診療を行っております。治療にお困りの患者がいましたら一度、ご相談ください。

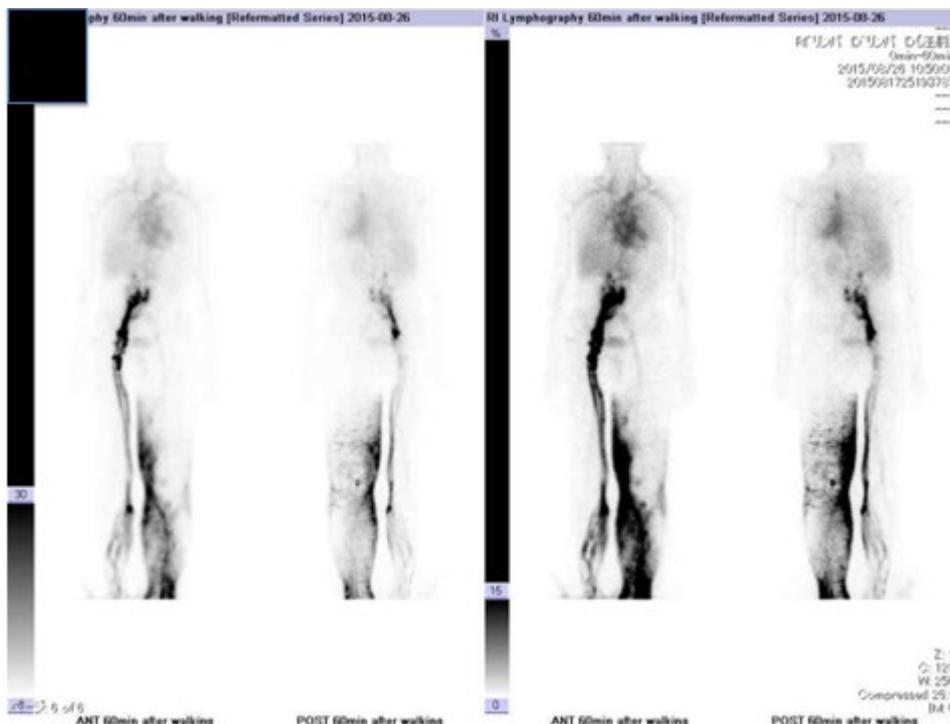


図4. リンパ管シンチ検査。造影剤を足趾に注射して60分後に撮影している。右側は乳び槽まできれいにリンパ管が造影されているが、左側は大腿、下腿でのリンパ流のうっ滞を認める。